

【新発田市立外ヶ輪小学校の実践】

第5学年 スマイルタイム（同和教育）学習指導案

1 単元名 病気に対する差別に立ち向かおう ～ 水俣病から学ぼう ～

2 ねらい

新潟水俣病によって多くの人々が命を奪われたり、差別や偏見に苦しんだりしている事実を理解し、新潟水俣病の原因追及や公害病認定に向けて懸命に闘ってきた人の生き方を学ぶことを通して、不当な差別に対する憤りをもち、差別や偏見に屈することなく立ち向かっていくことの大切さを学ぶ。

3 単元の構想

本校の「同和教育の指導内容」（研究紀要に記載）を受けて、本単元では、社会で起きている差別問題の中の「水俣病患者に対する差別」を取り上げている。この差別問題は、水俣病に対する正しい認識をもつことなく、いわれのない差別や偏見などから起こってきたという背景がある。このような差別や偏見を見抜き、なくそうとする学習を5学年で行うことで、6学年での「部落差別問題」の学習につなげていきたい。

本単元は、「差別に気付く」「被差別者に共感し、差別に憤りを感じる」「差別の不当性を認識する」「自己を見つめる」という4つの段階で構成する。

第1次では、「差別に気付く」「被差別者に共感し、差別に憤りを感じる」段階を大切にしていこう。「命の川」（上越市立東本町小学校 教諭 館岡 牧子 自作資料）をもとに、阿賀野川とその流域に住む人々とのつながりについて押さえる中で、写真「水俣病で硬直したまま動かなくなった漁師・船場岩蔵さんの手」をもとに新潟水俣病の存在と患者の方の苦しみを知らせる。その後、資料「新潟水俣病が教えてくれたもの」を活用して、病気のつらさだけでなく誤解や偏見がさらに患者の方を苦しめていたことに気付いていくことができるようにする。

第2次では、「被差別者に共感し、差別に憤りを感じる」「差別の不当性を認識する」段階を大切にしたい。3時では、新潟県平和運動センター 高野 秀男さんから新潟水俣病に関する様々な差別事象や支援団体として頑張ってきた経緯についての話の聞いたり、2時までの学習でよく分からない部分について質問したりして、新潟水俣病への理解を確かなものとする。さらに、5・6時では、「環境と人間のふれあい館」の見学や患者の方から直接話を聞く機会を設定し、新潟水俣病への理解を深めていく。体験を通して正しい知識を学ぶことで、新潟水俣病への理解をより確かなものとし、被差別者に共感し、差別に憤りを感じる気持ちを高めていきたい。また、学習を進めていく中で、差別や偏見に負けずに立ち向かってきた人々の姿や周りの人々の支援の大切さに気づき、みんなで差別や偏見をなくしていく気持ちを高めていきたい。この過程で、児童一人一人が、差別を受けている人たちにどのくらい共感しているか、差別や偏見に立ち向かう気持ちが高まっているかを振り返りカードを活用し、2時、4時、6時、8時、10時で形成的に評価していく。

第3次の「自己を見つめる」段階では、これまでの学習を振り返り、自分はどのように差別に対して行動していかなければならないのかについて考え、これからの日常生活における実践や行動に移す態度につなげていきたいと考える。

4 指導計画 (全10時間 本時8/10)

次	時数	ねらい	主な活動 (○)、資料名 (■)
1	1	阿賀野川とその流域に住む人々のつながりを知ることを通して、新潟水俣病の存在や病気に苦しんできた患者の方がいることに気付く。	○阿賀野川が暮らしと深く結び付いていたことを知ることを通して、一枚の写真からなぜこのようなことになってしまったのか考える。 ■「水俣病で硬直したまま動かなくなった漁師・船場岩蔵さんの手」(写真) ■「命の川」(上越市立東本町小学校 教諭 舘岡牧子 自作資料)
	2	新潟水俣病について学ぶことを通して、誤解や偏見がさらに患者の方を苦しめていたことに気付き、被差別者に共感する気持ちを高める。	○新潟水俣病の概要、患者の方が受けてきた誤解や偏見について調べたり、ワークシートにまとめる。 ■「新潟水俣病が教えてくれたもの」(新潟水俣病啓発周知パンフレット)
2	3	新潟水俣病の問題解決に取り組んでいる方の話を聞くことを通して、新潟水俣病について詳しく学び、理解する。	○新潟県平和運動センター 高野 秀男さんから新潟水俣病に関するより詳しい概要や様々な差別事象、支援団体として取り組んできた経緯について話を聞く。
	4	前時の学習をもとに、新潟水俣病の概要について理解を深める。	○新潟水俣病の概要や様々な差別事象についてまとめる。
	5	「環境と人間のふれあい館」の見学や新潟水俣病患者の方から話を聞くことを通して、新潟水俣病についてさらに深く理解し、差別や偏見に対して憤りをもつ。	○「環境と人間のふれあい館」を訪ね、新潟水俣病に対する理解を深める。 ○患者の方の話を聞き、質問したり、感じたことをメモしたりする。 ■新潟水俣病のビデオ ■展示資料と解説 ■新潟水俣病患者の方の話
	6		
	7	新潟水俣病患者の方が受けてきた差別の不当性に共感し、寄り添う気持ちを高める。	○「環境と人間のふれあい館」見学の整理をしたり、新潟水俣病患者の方の話から感じたことを発表し合ったりする。
3	8 (本時)	新潟水俣病患者の方が受けてきた差別や偏見を振り返ると共に、差別や偏見に負けない強い意志や、周りの人の支援の大切さに気付き、自分も差別に負けずに立ち向かい支援する生き方について考える。	○患者の方たちが、差別や偏見に屈することなく立ち上がってきた生き方に共感する。 ○患者の方たちを支えることの大切さに目を向けていくことができるようにする。 ■「真実をつかむために」(新潟水俣病出版事業編集協議会編「未来へ語りついで～新潟水俣病が教えてくれたもの～」一部改作)
	9 10	差別や偏見に対して立ち上がる勇気を持ち、自分たちにできることをまとめ、実践に移す態度を育てる。	○自己を見つめ、差別や偏見に立ち向かって行動する意志決定をする。 ○「環境と人間のふれあい館」を通して、患者の方たちに自分たちの気持ちを伝える。

5 本時の指導（本時8／10）

(1) 主題名 生きる希望を求めて、差別に立ち向かう ～ 水俣病から学ぼう ～

(2) ねらい

新潟水俣病患者の方が受けてきた差別や偏見を振り返ると共に、差別や偏見に負けない強い意志や、周りの人の支援の大切さに気付き、自分も差別に負けずに立ち向かい支援する生き方について考える。

(3) 資料「真実をつかむために」

（新潟水俣病出版事業編集協議会編「未来へ語りついで～新潟水俣病が教えてくれたもの～」2006年 p.8～p.10 一部改作）

本資料は、新潟水俣病に対する差別や偏見の中で、力強く生きてきた患者の方の生き方が取り上げられている。また、患者の方が差別や偏見に立ち向かうことができたのは、患者の方の頑張りや周囲の人たちの支援が大切であることに気付くことができる資料である。この資料を通して、傍観者を生まない人権感覚を育てていきたい。この資質が、6学年で学習する部落差別を許さない意識につながるものであると考える。

このような特徴を踏まえた上で、今後、差別や偏見に対しどのように立ち向かっていくかについて、自分自身を見つめ、一人一人が友達や自分と対話をしながら学習を進めていけるよう働きかけていきたいと考える。

(4) 展開の構想

①差別に気付く

患者の方が受けてきた差別や偏見について、これまでの学習を振り返らせる。前時まで学習してきた高野さんの話や患者の方の話、見学記録などをもとに認定患者の方と未認定患者の方の両方の立場で、患者の方が受けてきた差別や偏見を出し合うことができるようにする。

②憤りをもち、差別の不当性の認識を深める

差別に気付く過程で差別の不当性を認識し、患者の方に寄り添わせ、差別や偏見に対する憤りを高めていく。差別や偏見の内容を明確に押さえることができるように、差別者からの吹き出しを活用して、黒板にまとめていく。

③差別に対して行動する

資料「真実をつかむために」をもとに、長い間差別や偏見に立ち向かってきた強い意志に共感させていく。そのため、教師の読み聞かせの後、教師が患者の方の行動に赤線を引いて全体で確認する。その上で、このような行動につながった背景に患者の方の強い意志とそれを支える周囲の支援があったことに目を向けさせていく。患者の方の強い意志と周囲の支援の二つの力を構造的に板書することで、差別や偏見に立ち向かってきた過程において二つの力が大切だったことに気付かせたい。そして、二つの力が重なり合ったことで、長い間、差別や偏見と闘ってきたことができたという理解につなげたい。

差別や偏見に対する自分自身の行動を見つめ、これからの自分について考える時間を十分にとり、患者の方に向けた自分たちの勇気を確認できる授業を構成していきたい。

(5) 本時の展開 (○：働きかけ ・：反応 ←：支援 *：評価)

学習内容	教師の働きかけと予想される児童の反応	指導上の留意点（支援・評価）
<p>1 新潟水俣病患者の方が受けた差別や偏見を出し合い、憤りの気持ちをもつ。 (5分)</p>	<p>○ この前、小武さんのお話を聞きました。その後で、新潟水俣病の患者さんたちは、どのような差別や偏見を受けてきたのかについてまとめました。そのことについて振り返り、出し合いましょう。 (差別発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「魚のたたり」。 ・「うつるから遊ばな」。 ・「怠け者」。 ・「にせ患者」。 <p>・陰口を言われた。 (差別態度・仕打ち)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷たい態度で見られた。 ・ひどい葉書きが来た。 ・診察を後回しにされた。 ・水俣病として認めてもらえなかった。 	<p>←これまでの学習の振り返りで、短冊にまとめたものを張り出して確認していく。</p> <p>←児童の発言内容が不十分な場合は、補足して、差別や偏見の不当性を正しく認識させる。</p> <p>←差別や偏見の不当性を確認する上で、憤る気持ちを高めさせていく。</p> <p>←差別や偏見の発言に関する内容を右側上部に掲示し、態度に関する内容を右側下部に掲示する。その際、差別者からの吹き出しを活用し、場面の様子や人物の立場をとらえやすくする。</p> <p>* 差別が続いていることに気付き、憤りをもつ中で、被差別者に寄り添う気持ちを高めることができたか。(発言)</p>
<p>2 新潟水俣病患者の方に寄り添い、自分だったらどうするかを考える。 (5分)</p>	<p>○ このような差別や偏見を受けて、あなたが患者さんだったら、どうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣病であることを認めてほしいが、言えないでいる。 ・差別的なことを言う人に、なぜそのようなことを言うのか言い返す。 ・水俣病の苦しみを訴える。 ・自分が水俣病であることをきちんと認めてほしい。 ・裁判に訴えて、昭和電工に罪を償ってもらう。 	<p>←ワークシート①の配付と記入。</p> <p>←自分の立場を理由も含めて書かせることで、本時のまとめで学習を通しての心の変化を振り返ることができるようにする。</p> <p>←水俣病であることを言いたいが、言えない気持ち、裁判に訴えてきた気持ちの両方に共感させる。</p> <p>*患者の方に自分を同化させ、自分の立場を明らかにすることができたか。(ワークシート①)</p>
<p>3 新潟水俣病患者の方が闘ってこられた理由について考え、差別に負けない強い意志や周囲の支援に気付く。 (25分)</p>	<p>○ この患者さんは、手足のしびれがあるのに水俣病と認めてもらえませんでした。そのとき、この患者さんはどうしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裁判で闘った。 <p>○ 裁判で認めてもらうために、この患者さんは、どんなことをしましたか。</p>	<p>←資料の配付と提示。</p> <p>←差別は現在も続いていることを確認し、資料のあらすじを話した後で、範読する。</p> <p>←ひと言で簡単にまとめさせる。</p> <p>←児童の発言をもとに、提示資料に赤線を引き、行動を確認する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を苦しめている病気が水俣病であることを訴えてきた。 ・病気の苦しさに負けず、償ってほしいという気持ちを伝えてきた。 ・同じ苦しみをもつ熊本県水俣市の人たちと手を取り合って行動を起こした。 ・被害者の苦しみや国、昭和電工の責任を集会や街角で繰り返し訴えた。 ・東京へ出かけて政府に訴えた。 ・ビラを配るなどして、全国の人たちに水俣病の問題を理解してもらおうと頑張った。 ・県や市町村にも問題の解決に協力してもらおうようお願いした。 <p>○ 体も心もつらい思いをしている患者さんが、13年間もの長い間、裁判で闘ってこられた理由は何だろう。 (患者さん自身の強い意志)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ水俣病と認められないのか納得がいかない気持ち。 ・自分が水俣病でないなら、何の病気なのかを知りたい気持ち。 ・昭和電工や国に責任をとってもらいたいという気持ち。 ・水俣病で亡くなった仲間への気持ち。 ・自分たちは何も悪いことをしていないのに病気になったという無念な気持ち。 ・他に被害を受ける人をなくしたいという気持ち。 (周囲の支える姿) ・患者さんの頑張りを支える周りの協力があったから、差別と闘ってこられたと思う。 ・患者さんが、励ましの言葉のおかげで頑張れたと言っていたよ。 ・患者さんの苦しさや悩みを真剣に聞いてくれる人たちがいたから。 ・患者さんが、ビラを配って訴えている時に、全国各地の応援してくれるみなさんが、勇気付けに来てくれたから。 	<p>←既習の学習から分かる資料以外での患者の方の行動についても生かしていく。</p> <p>←闘いの様子を左側上部に板書していく。その際、患者の方からの吹き出しを活用し、場面の様子や人物の立場をとらえやすくする。</p> <p>←児童の発言をもとに、提示資料に赤線を引き、行動を確認する。</p> <p>←既習の学習から分かる資料以外での患者の方の行動についても生かしていく。</p> <p>←闘いの様子を左側上部に板書していく。その際、患者の方からの吹き出しを活用し、場面の様子や人物の立場をとらえやすくする。</p> <p>←ワークシート②の配付と記入。</p> <p>←患者の方の行動を支えてきたものとして、患者の方の強い意志があったことに気付かせる。</p> <p>○机間指導により、N児に患者の方の苦しみと自分の中にある差別や偏見に対する怒りを同化させ、患者の方の強い意志に共感できるように働きかけをする。</p> <p>←周りの人たちの支えがなかった場合について考えさせ、周囲の支援の大切さに気付くことができるようにする。</p> <p>○患者の方の苦しみを振り返らせる中で、友達に支えられてきたうれしさをM児に思い出させ、差別や偏見に対して、協力して立ち向かうことの大切さに気付かせる。</p> <p>←周囲の支援に関する内容を左側下部に板書する。その際、周囲の方の支援と患者の方の強い意志を構造的に板書する。</p> <p>*差別や偏見に立ち向かってきた患者の方の強い意志に気付き、共感</p>
--	--	--

<p>4 新潟水俣病患者の方の闘いから、差別や偏見に負けないために大切なことを確認し、学習を振り返り、学びを深める。</p> <p>(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み物を差し入れして、励ましてくれたから。 ・昭和電工の前で、一緒に座り込みをして応援してくれたから。 <p>○ 患者さんや周りで支えてくれた方たちの行動から学んで、自分たちの生活に生かしましょう。自分や友達が差別や偏見に苦しんでいたら、あなたはどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような差別や偏見で苦しんでいるのかを、周りの人たちにも知ってもらい、力を合わせて立ち向かっていきたい。 ・自分が頑張ることも大切だが、周りの人たちの支えが、より差別や偏見を許さない気持ちを伝えることにつながるので、支える気持ちを忘れないようにしたい。 ・差別や偏見に苦しんでいる人たちと共に闘うことが、差別や偏見を許さないことにつながるので、一緒に闘っていきたい。 ・一人ではなく、みんなで力を合わせて解決していこうと思う。 ・黙っていても解決にはならないので、声に出していく。 ・病気の苦しみに負けず、差別や偏見に自分から立ち向かっていく勇気をもつ。 ・差別に負けず立ち上がった患者さんのようになって、差別や偏見と闘う。 ・差別や偏見に苦しんでいる人がいたら、支えていこうと思う。 	<p>することができたか。(発言)</p> <p>*患者の方を支える周囲の支援があったことに目を向けることができたか。(ワークシート②)</p> <p>ワークシート②の記入。</p> <p>*差別や偏見に立ち向かう強い意志やそれを支える周りの力の大切さに気付くことができたか。(ワークシート②)</p>
---	--	---